



ナイジェリア大学学長、ジョモ・ケニヤッタ農工大学学長、エジプト日本科学技術大学副学長など30名が来日  
アフリカからの招へい大学

大学名	国
カイロ大学	エジプト
エジプト日本科学技術大学	エジプト
ガーナ大学	ガーナ
ジョモ・ケニヤッタ農工大学	ケニア
ナイロビ大学	ケニア
ナイジェリア大学	ナイジェリア
プレトリア大学	南アフリカ
ステレンボッシュ大学	南アフリカ
ザンビア大学	ザンビア

科学技術振興機構（JST）は「国際青年サイエンス交流事業」（さくらサイエンスプログラム・SSP）の一環として初めてアフリカ6カ国（エジプト、ガーナ、ケニア、ナイジェリア、南アフリカ、ザンビア）より科学技術関係者の招へいを実施した。今回の招へい事業の特徴は、アフリカ6カ国より、同地域におけるトップ9大学の学長・副学長をはじめ各大学の国際連携を担う経営層や、各国の教育省などから初等・中等教育や高等教育を担う行政官など、合計30名を招へいたことにある。アフリカは今後、人口の急拡大や、それに伴う経済の発展が予測され、国際社会における存在感を高めてきた。日本は古くからODAによる支援などによりアフリカ地域の発展を支え、交流を行ってきたが、今後さらなる国際ネットワークの充実や国際脳循環の構築を見据え、科学技術分野におけるアフリカとの交

流の拡大が期待されている。招へい団は、5月28日に来日し、6月3日の離日までに国際協力機構、産業技術総合研究所、筑波大学、国立極地研究所、東京工業大学、日本科学未来館など、日本を代表する科学技術やその環境を体験した。5月31日には、JSTにおいて招へい団に加えて日本の大学・機関の副学長などが一堂に会する「日本・アフリカ大学交流会議2023」が開催された。同会議ではアフリカ側の特徴や両地域間の交流実績を含めた国際連携への期待などが発表され、JSTからは同機構が運営する国際共同研究プログラムや国際交流プログラムとして、地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム（SATREPS）、AJCORE（Africa-Japan Collaborative Research）、さくらサイエンスプログラムについての説明がなされた。会議終了後には参加者同士のネットワークの時間が設けられ、新規の国際交流を望む大学・機関同士などによる積極的な交流が行われた。今回の招へい及びイベントは、昨年8月にJSTが第8回アフリカ開発会議（TICA D8）公式サイドイベント「日本・アフリカサイエンスイノベーションウィーク 日本アフリカ大学交流会議」を開催し、「2023年度から継続的にアフリカから高校生、大学生、大学院生、若手研究者等を招へいし、その招へいを将来に向けて年500名を目標として拡大することを旨」と提言したことに端を発する。JSTは今回の招へい及びイベントを契機として、特に大学生や大学院生などを中心とした若者による日本とアフリカの大学間の人的交流を活性化し、さくらサイエンスプログラムを通じた日本の大学・機関の国際化や、国際脳循環への貢献を図りたい考えだ。

アフリカ6カ国より、大学長や行政官ら招へい  
JST、日本・アフリカ大学交流会議'23を開催